

MY LIFE,
MY CHOICE

わたしの人生、
わたしの選択

開催間近!

11月25～28日 会場:都市センターホテル

日本尊厳死協会50周年記念 世界連盟東京大会2026概要

「第26回尊厳死協会世界連盟東京大会」が来月に迫りました。日本での開催は4回目。

「自己決定に基づく良き死」の実現をめざし、歴史や文化、

価値観の多様性を相互に尊重しながら学びを深め、交流し、支え合う大会です。

晩秋の4日間、解剖学者・養老孟司さんの特別講演をはじめ60人を超える演者が登壇し、
各国の尊厳死の現状やMAID (医療介助死)をめぐる諸課題などについて熱弁を展開します。

そのスケジュールと全演題・副題を併せて掲載します。

Dublin
2024

2024年の前回大会会
場となったアイルラン
ド・ダブリンのロイヤ
ルマリンホテル

Tokyo
2026

東京大会の会場となる東京・
都市センターホテル

ごあいさつ——「東京大会」に向けて

一つの国の前進が 他の国の希望に



間もなく開催される東京大会を心待ちにする中、日本の皆さま、そして特に、この重要な大会の実現のために多大な時間と労力、そして心を尽くしてくださったすべての方々に、心より深く感謝申し上げます。国際会議を開催することは非常に大きな事業であり、皆さまの献身は、私たち連盟を長年支えてきた「協力の精神」をまさに体現するものです。

東京大会は、単なる会議ではありません。友情を深め、知識や経験を分かち合い、そして、一人ひとりがそれぞれの希望や価値観に沿って「最善の人生の最期」を迎えられるよう力を尽くすという、私たち共通の使命を改めて確認する機会となるでしょう。また、多くの参加者にとって、素晴らしい日本という国とその文化に触れる貴重な機会にもなることでしょう。

尊厳死協会世界連盟の加盟団体の皆さまには、私たちの



尊厳死協会世界連盟会長

アサンシオン・
アルバレス

Asunción Álvarez

メキシコ国立自治大学 (UNAM) 医学部に所属し、尊厳ある死を迎える権利 (Right to Die with Dignity) を専門分野として研究・教育・啓発活動に従事。人々が望む終末期医療を選択できるよう、文化的・法的環境の整備に尽力。2019 年より尊厳死協会世界連盟 (WFRtDS) 副会長、2021 年より会長。

共通の使命のために注いでくださっている献身、粘り強い努力、そして思いやりに、心から感謝申し上げます。私たちは、それぞれ異なる文化的・社会的・法的背景のもとで活動していますが、人生の最

期における個人の自己決定権と尊厳を尊重することは、人間にとって根本的な価値であるという信念によって結ばれています。

連帯の声をさらに力強く

国際協力は、常に私たちの最も大きな強みの一つでした。一つの国で実現した前進は他の国々に希望と刺激を与え、共有された課題は私たちがともに学び、成長する力となります。互いに支え合い、知恵を分かち合い、国境を越えて協力することで、私たちは連帯の声をさらに力強いものとし、社会に意義ある変化をもたらす力を高めることができます。

東京で皆さまにお会いし、ともに活動が続けられることを心から楽しみにしております。この素晴らしい国際的なコミュニティの一員でいてくださることに、改めて感謝申し上げます。心からの敬意と感謝を込めて。

26日(木)	25日(水)		会場
8:00 海外受付・一般受付	14:00 海外からの事前登録受付		1階 正面玄関横
【開会式】 司会：野元 正弘副理事長 11:30 開会の辞（日本尊厳死協会理事長）北村 義浩 11:35 主催者挨拶（尊厳死協会世界連盟会長）Asunción Alvarez 11:45 厚生労働省医政局長祝辞 佐々木昌弘 11:50 基調講演 尊厳死協会世界連盟前事務局長 Rob Jonquiere 12:10 基調講演 尊厳死協会世界連盟元会長 Sean Davison 12:30 終了		午前	
【特別講演】 14:00 講演 養老 孟司 ※当初予定しておりました柳田邦男氏に代わり 養老孟司氏に変更となりました。 養老氏のこれまでの幅広い知見をもとに東京大会のテーマにふさわしい 貴重なお話をいただく予定です。 15:00 終了 【シンポジウムⅠ】 座長：北村 義浩理事長 東アジアにおける終末期医療法制度 End-of-Life Care Legislations in East Asia 15:15 イントロダクション 15:20 北村 義浩（日本） 15:40 Dahye Choi（韓国） 16:00 Jae Ryeon Kim（韓国） 16:20 蔡 甫昌（Daniel Fu-chang Tsai）（台湾） 16:40 鍾 宜錚（Yicheng Chung）（台湾） 17:00 質疑応答及び討論 17:30 終了		午後	3階 コスモス
8:30 ～ 11:15 世界連盟総会 business meeting		午前	
【セッションⅠ】 座長：北村 聖評議員 自律の歴史・哲学・関係性・教育等、分野横断テーマ Historical, Philosophical, and Relational Foundations of Autonomy in the Right to Die 15:15 イントロダクション 15:20 Niels De Nutte（ベルギー） 15:35 Dennis Demedits（ベルギー） 15:50 Pelayo Manu（ニュージーランド） 16:05 川上 陽子（日本） 16:20 齋藤 睦美（日本） 16:35 Anna Cohen Kirah（ノルウェー） Galina Arbeli（ノルウェー） 16:50 質疑応答及び討論 17:10 終了		午後	5階 スバル
	16:00 世界連盟理事会		5階 松
12:00～13:30 昼食	17:00 ウェルカムレセプション （世界連盟理事、日本尊厳死協会役員）		5階 オリオン

【世界連盟東京大会スケジュール】

28日(土)	27日(金) 会場2分割	
9:00 海外受付・一般受付 （オープンスペースアクティビティ） 10:00～12:30 ①もしバナゲーム Interactive "Go Wish Game" Workshop: Reflecting on Future Care and End-of-Life Choices ②医療相談コーナー Medical Consultation Booth ③法律相談コーナー Legal Consultation Booth ④セラピードッグ デモンストレーション ((公)日本動物病院協会) Therapy Dog Interaction Session and Demonstration	B会場【シンポジウムⅡ】 座長：満岡 聡理事 尊厳死：医療助死、緩和ケアによる死、鎮静、自発的 飲食停止、文化・歴史・倫理的背景の多様性と相互理解 Dying with Dignity : MAID, Death with palliative care, Sedation, VSED 9:30 イントロダクション 満岡 聡理事 9:50 Rob Jonquiere (オランダ) 10:20 森 雅紀 (日本) 10:40 Pope Thaddeus (アメリカ) コーヒーブレイク 11:10 細田 満和子 (日本) 11:30 児玉 聡 (日本) 11:50 質疑応答及び討論 12:20 終了	9:00 海外受付・一般受付 A会場【セッション2】 座長：上別府圭子副理事長、小川純人理事 日本における終末期ケアの社会的・関係的側面： 実態、物語、および支援制度の役割 Social and Relational Dimensions of End-of-Life Care in Japan: Realities, Narratives, and the Role of Social Systems 9:30 イントロダクション 9:35 矢可部 満隆 (日本) 9:50 小島 和男 (日本) 10:05 松隈 知栄子 評議員 10:20 江越 正嘉 (日本) 10:35 コーヒーブレイク 10:50 杉浦 敏之 関東甲信越支部長 11:05 國枝 良行 (日本) 11:20 平林 池保子 (協会医療相談員) 11:35 近藤 和子 (協会小さな灯台プロジェクト) 11:50 質疑応答及び討論 12:20 終了
	B会場【シンポジウムⅢ】 座長：野元 正弘 副理事長 認知症とリビング・ウィル Dementia and LW -Support for shared decision in the EOL- 14:00 イントロダクション 14:10 下畑 享良 (日本) 14:30 荻野 美恵子 (日本) 14:50 Asunción Alvarez (メキシコ) 15:10 質疑応答及び討論 15:20 コーヒーブレイク 【シンポジウムⅣ】 座長：宮本 礼子 理事 人工的な栄養と水分補給の差し控えと撤回 Withholding and withdrawing artificial nutrition and hydration (ANH) 15:40 イントロダクション 15:45 城家 優子 (日本) 15:55 近藤 和子 (協会小さな灯台プロジェクト) 16:05 宮本 礼子 理事 16:15 井尾 和雄 評議員 16:25 質疑応答及び討論 17:00 終了	A会場【記念講演】 司会：北村 義浩 理事長 14:00 協会50周年講演 (岩尾 總一郎 名誉会長) 14:40 日本尊厳死協会功労者表彰 14:50 支部プレゼンテーション 司会：田村 幸代 理事 14:55 北海道支部 15:05 東北支部 15:20 関東甲信越支部 15:35 コーヒーブレイク 15:50 東海北陸支部 16:05 関西支部 16:20 中国支部 16:35 四国支部 16:50 九州支部 17:00 終了
シアター 10:00 挨拶 (長尾 和宏 前副理事長) 10:30 映画上映 「痛くない死に方」英語字幕付き 12:00 終了	【セッション3】 座長：伊藤 道哉 理事 MAID/VADの国際比較：法制度の変遷、運用実態、およびガバナンス International Comparison of MAID/VAD: Legal Evolution, Implementation, and Governance 9:30 イントロダクション 9:35 Fransien van ter Beek (オランダ) 9:50 Dennis Demedts (ベルギー) 10:05 Kelsey A Goforth (カナダ) 10:20 Edmund Tiryakian (アメリカ) 10:35 コーヒーブレイク 10:50 Jane E. Morris (オーストラリア) 11:05 南 貴子 (日本) 11:20 Marija Milavec Kapun (スロベニア) 11:35 Lord Tung Lam (香港) 11:50 質疑応答及び討論 12:20 終了	
	【セッション4】 座長：岡田 就将 理事 MAID/VADの社会的実践とケア：アクセスの障壁、越境する選択、デス・リテラシー Social Practice and Care in MAID/VAD: Barriers to Access, Cross-Border Choices, and Death Literacy 14:00 イントロダクション 14:05 Kristy Martin (アメリカ) 14:20 Lewis M. Cohen (アメリカ) 14:35 You Ha Nam (韓国) 14:50 Sean Davison (スイス) 15:05 コーヒーブレイク 15:20 Janet Hager (アメリカ) 15:35 櫻井 幸男 (日本) 15:50 Donald J. Moore (アメリカ) 16:05 小島 和男 (日本) 16:20 質疑応答及び討論 17:00 終了	
	12:30～14:00 昼食 18:00～ GALA Dinner (協会設立50周年記念パーティ同時開催)、世界連盟3賞授賞式	

講演者と演題・副題

大会4日間にわたり、講演やシンポジウム、セッション等に
60人を超える尊厳死に関する専門家や研究者らが登壇し、
多角的・重層的に「尊厳死の実相と課題」に迫ります。
世界大会の予備知識として、ここに事前に登壇者から提出された演題と副題を
一挙掲載いたします。

[11月26日(木)]

基調講演 11:50 (3階コスモス)

演者：Rob Jonquiere (オランダ)
尊厳死協会世界連盟前事務局長

演題：50年の発展

副題：尊厳死協会世界連盟の歩み

演者：Sean Davison (スイス)
尊厳死協会世界連盟元会長

演題：わたしの個人的証言

副題：苦痛からの解放をめぐる社会的挑戦

特別講演 14:00 (3階コスモス)

講演：養老 孟司

演題：私の往生際

シンポジウムI 15:15 (3階コスモス)

座長：北村 義浩理事長
東アジアにおける終末期医療法制度

演者：Dahye Choi (韓国)

演題：韓国における終末期ケアと自己決定

副題：緩和ケア、延命治療の中止、そして医師ほう
助死の可能性

演者：Jaeryon Kim (韓国)

演題：韓国の憲法訴願からみる課題と示唆

演者：蔡 甫昌 (Daniel Fu-chang Tsai) (台湾)

演題：台湾における患者自主権利法の立法過程と
現状、課題

演者：鍾 宜錚 (Yicheng Chung) (台湾)

演題：台湾における自発的飲食停止と
患者の自己決定権

副題：終末期の自己決定と安楽死合法化をめぐる
議論

セッション1 15:15 (5階スバル)

座長：北村 聖評議員

自律の歴史・哲学・関係性・教育等、
分野横断テーマ

演者：Niels De Nutte (ベルギー)

演題：国際的視点からみた「死ぬ権利」の歴史的出現

演者：Dennis Demedts (ベルギー)

演題：将来の看護師・医療専門職に対する MAID (医
療介助死) への対応教育

副題：EUroMAiD プロジェクト

演者：Pelayo Manu (ニュージーランド)

演題：ファーナウ*と医師による介助死の研究

副題：アオテアロア・ニュージーランド**における
家族の経験に関する質的研究

(* ファーナウは、マオリの概念で家族を超えた共同体的
なつながり、という意味)

(** アオテアロア・ニュージーランドは、ニュージーラ
ンドのマオリ語名称)

演者：川上 陽子 (日本)

演題：生死をめぐる自己決定を問い直す

副題：免疫学者・多田富雄の「全体性」と芸術実践
の考察

演者：齋藤 睦美 (日本)

演題：リビング・ウィルをめぐる当事者視点からみ
た「反延命」批判と ACP (アドバンス・ケア・
プランニング、人生会議) の課題

演者：Anne Cohen Kirah (ノルウェー)

Galina Arbeli (ノルウェー)

演題：死を生へと取り戻す

副題：デス・リテラシー教育の重要性

[11月27日(金) 午前]

セッション2 9:30 (3階コスモス)

座長：上別府圭子副理事長、小川純人理事
日本における終末期ケアの社会的・関係的側面：実態、物語、および支援制度の役割

演者：矢可部 満隆 (日本)

演題：終末期医療、リビング・ウィル、および死の兆候に関する年齢別・環境別の相違

副題：終末期医療の専門知識を有する医師を対象とした質問票調査

演者：小島 和男 (日本)

演題：MAIDの法制化を成功させるために

演者：松隈 知栄子 (日本)

演者：江越 正嘉 (日本)

演題：身寄りのない方に対する終末期に向けての支援

副題：ALP(アドバンス・ライフ・プランニング)と意思決定の大切さ

演者：杉浦 敏之 (日本)

演題：日本における看取りの現状

副題：他国との比較も含めて

演者：國枝 良行 (日本)

演題：母から託された「看取りの記録」

副題：ヒトと動物の同時看取りを経験した医師の葛藤と覚悟

演者：平林 池保子 (日本)

演題：人生の最終段階における伴走者

副題：医療相談の役割

演者：近藤 和子 (日本)

演題：ご遺族のグリーフワークを支えたい、そしてひとつひとつの体験をともしびに

副題：「小さな灯台プロジェクト」の役割

シンポジウムⅡ 9:30 (3階コスモス)

座長：満岡 聡理事

尊厳死：MAID、緩和ケアによる死、鎮静、自発的飲食停止、文化・歴史・倫理的背景の多様性と相互理解

演者：Rob Jonquiere (オランダ)

演題：Euthanasia (安楽死)

副題：オランダにおける制度化の背景と経緯

演者：森 雅紀 (日本)

演題：日本における緩和ケアと鎮静

副題：難治性の苦痛にどう対応するか

演者：Thaddeus Pope (アメリカ)

演題：VSED(自発的飲食停止)

演者：細田 満和子 (日本)

演題：日本における尊厳死をめぐる議論の社会学的考察

演者：児玉 聡 (日本)

演題：日本における安楽死の議論について

副題：倫理学的見地から

セッション3 9:30 (5階スパル)

座長：伊藤 道哉理事

MAID/VADの国際比較：法制度の変遷、運用実態、およびガバナンス

演者：Fransien van ter Beek (オランダ)

演題：オランダにおける MAID法制25年

副題：その過去・現在・未来

演者：Dennis Demedts (ベルギー)

演題：ベルギーおよびオランダにおけるMAID立法の進展

副題：終末期から非終末期の苦痛、子ども、そして進行期認知症へ

演者：Kelsey A. Goforth (カナダ)

演題：最初の10年

副題：カナダにおけるMAIDの実態と、「死ぬ権利」運動の役割を明らかにする

演者：Edmund Tiryakian (アメリカ)

演題：アメリカにおける MAIDの実践と進展の概要

副題：前回のダブリン大会以降、新たに加わった3州を含めて

演者：Jane E. Morris (オーストラリア)

演題：オーストラリア・ビクトリア州における VAD (自発的医療ほう助死) の議論に、地域社会の声がどのように影響を与えたか

演者：南 貴子 (日本)

演題：オーストラリアにおけるVAD法をめぐる諸課題

演者：Marija Milavec Kapun (スロベニア)

演題：スロベニアにおけるMAIDの規制

副題：法的背景、関係者の立場、および最近の政策動向

演者：Lord Tung Lum (香港)

演題：タン・ラム法案

[11月27日(金) 午後]

記念講演 14:00 (3階コスモス)

演者：岩尾 總一郎 (日本)

演題：日本尊厳死協会の歩みと役割

副題：リビング・ウィルを通じた自己決定権の確立を目指して

日本尊厳死協会功労者表彰

14:40 (3階コスモス)

支部プレゼンテーション

14:50 (3階コスモス)

シンポジウムⅢ 14:00 (3階コスモス)

座長：野元 正弘副理事長

認知症とリビング・ウィル

演者：下畑 享良 (日本)

演題：進行期神経疾患における治療

副題：期待される利益，負担，そして限界

演者：荻野 美恵子 (日本)

演題：認知症を含む神経疾患患者に対する終末期医療における治療の意思決定支援 (仮)

演者：Asunción Alvarez (メキシコ)

演題：進行認知症とともに生きないという選択は可能か

シンポジウムⅣ 15:40 (3階コスモス)

座長：宮本 礼子理事

人工的な栄養と水分補給の差し控えと撤回

演者：城家 優子 (日本)

演題：終末期医療における栄養管理の継続と選択肢に関する考察

演者：近藤 和子 (日本)

演題：NOと言える勇気を育て、その勇気を支えたい「小さな灯台プロジェクト」

演者：宮本 礼子 (日本)

演題：認知症終末期の人工栄養

演者：井尾 和雄 (日本)

演題：点滴は天敵

セッション4 14:00 (5階スバル)

座長：岡田 就将理事

MAID/VADの社会的実践とケア：

アクセスの障壁、越境する選択、デス・リテラシー

演者：Kristy Martin (アメリカ)

演題：計画された「スイス自死」

副題：スイスでVADを希望する多くの人を受け止め、自殺企図を防ぐための神経認知学的・組織的アプローチ

演者：Lewis M. Cohen (アメリカ)

演題：自殺ツーリズムについての考察

演者：You Ha Nam (韓国)

演題：終末期における国境を超えた選択

副題：スイスでの医師ほう助死を求めた韓国人家族の経験と制度的課題

演者：Sean Davison (スイス)

演題：スイスにおける介助死の境界をめぐる検討の合意

副題：ベガソスが適格基準をどのように拡張してきたか

演者：Janet Hager (アメリカ)

演題：MAIDが、苦しむ人々に十分応えられていない現状

演者：櫻井 幸男 (日本)

演題：なぜVADの制度や司法判断は、特定の地域で生まれるのか？

演者：Donald J. Moore (アメリカ)

演題：MAID へのアクセス格差を埋める

副題：アメリカ合衆国における終末期の選択をめぐる不平等

演者：小島 和男 (日本)

演題：続ける価値から止める権利へ

副題：反出生主義とMAIDの哲学的正当性

[11月28日(土) 午前]

オープンスペースで、こんな催しも

もしバナゲームを 体験しよう

このゲームは、緩和ケアや地域・在宅医療に取り組む医師らによって設立された一般社団法人iACPが米国の「Go Wish Game」をもとに開発したもの。カードに書かれた「人生の最終段階で大切にしたいこと」を選びながら進めるシンプルな内容。当日は、iACPマイスタープログラムを修了した支部理事が進行をサポートします。

医療相談は いかがですか

医療相談では、胸の内を話し聞いてもらうことで思いが整理されていくお手伝いをします。①リビング・ウィルや「私の希望表明書」って何？いつ、どのように書くのでしょうか。②口から食べられなくなった時に、胃ろうは拒否できるのでしょうか。③最期まで住み慣れた自宅で過ごすことはできますか？などの困りごとを相談してみませんか。協会の電話相談員の看護師がお話を伺います。

終末期の 法律相談にも応じます

尊厳死協会の理事である弁護士が「終末期の法律相談」に応じます。◎ご自身が重い病気で治療や延命について悩んでいる。延命中止の法的根拠は？◎ご家族が終末期にあり、判断を迫られている。代理人としての法的役割は？◎自分や家族の「もしも」のために備えたい。リビング・ウィルの法的根拠は？◎遺言、任意後見、財産管理等について知りたい——そんな方は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

セラピードッグ デモンストレーション

会場に、日本動物病院協会で現在活躍中のセラピードッグとその飼い主であるボランティアを招いて、実際の活動をご覧いただける機会を設けました。セラピードッグとは、病院や高齢者施設、学校などを訪問して、人の心のケアを目的に活動する犬のことです。犬と触れ合ったり、一緒に過ごすことで利用者の不安や緊張が和らいだり、表情や会話が増えることが期待されます。



映画「痛くない死に方」 上映会

尊厳死協会の元副理事長で、在宅診療に携わってきた長尾和宏医師による『痛くない死に方』を、高橋判明監督・脚本で映画化。柄本佑演じる若き在宅診療医が、厳しい現実にも悩みながらも次第に終末期の患者とその家族に向き合う医師となるまでの葛藤の物語。

【登録と参加費等のお知らせ】

登録

大会に参加するには事前登録が必要です、登録は協会ホームページの大会特設サイトからお願いします。

参加費

全日全プログラム聴講可能・昼食なし：協会会員 3 千円、一般参加者 5 千円

全日全プログラム聴講可能・昼食付き：2 万円
(同伴家族 1 万円)

3 日通し券のみの発行で、単日券はありません。

記念品

ご参加の皆さまへの記念品として、会報で人気の「四季の歌」を 1 冊にまとめたオールカラー写真歌集(英語版付)、さらに協会 50 年の歴史をまとめた記念誌『年表が語る協会 50 年の歩み』を大会バッグに収めてお渡しする予定です。



オープンスペースの各種イベントに参加希望の方は、東京大会の参加登録(有料)とは別に事前予約をお願いします。先着順にお受けします。28日のイベントのみに参加を希望される場合でも、事前の参加登録及び参加費用が必要になります。事前予約及びお問い合わせは、電話(03-3818-6563)またはメール(yoyaku2026@songenshi-kyokai.or.jp)で、担当の丹澤まで。

「東京大会」を迎えるにあたり

50年前の東京の一步を 次の50年へ



親愛なる会員の皆さま、そして世界の仲間の皆さま

2026年11月、尊厳死協会世界連盟（WFRtDS）国際大会を東京で開催できることを、大変嬉しく思います。

今回の大会は、私たち日本尊厳死協会にとって特別な意味を持っています。1976年、日本尊厳死協会の創立と同じ年に、ここ東京で第1回国際会議が開催され、「東京宣言」が採択されました。それから半世紀、50年を経て今年、東京で国際大会を開催することは、これまでの歩みを振り返り、未来を考える貴重な機会です。今回のテーマは、「MY LIFE, MY CHOICE（わたしの人生、わたしの選択）」。

人生の最終段階をどのように生き、どのように迎えるかは、一人ひとりの人生観や価値観、家族との関係、そしてその国の文化や社会のあり方とも深く結びついています。異なる背景を持つ私たちが互い



尊厳死協会世界連盟
東京大会会長

日本尊厳死協会理事長

北村 義浩

の考えを知り、対話し、学ぶ
合うことに、この国際会議の
大きな意義があります。

会員の皆さまに 支えられ…

日本尊厳死協会にとって、
2026年は創立50周年でもあります。この50年間、私たちは、人生の最終段階について自ら考え、意思を表明することの大切さを訴え、リビング

・ウィルの普及などに取り組んできました。その歩みを支えてくださったのは、会員の皆さまお一人おひとりです。心より感謝申し上げます。

今回の東京大会は、協会が主催する国際大会であると同時に、この大会を、会員の皆さまとともに迎える50周年の記念すべき大会にしたいと思います。世界から集う仲間たちと交流し、それぞれの経験と考えに耳を傾けながら、これからの人生の最終段階のあり方について、ともに考えてみませんか。

50年前、東京から始まった国際的なつながりが、50年を経て今、東京に戻ってきます。50年の歩みを胸に、世界の仲間と手を携え、次の50年へ。新たな一步を、皆さまとともに力強く踏み出したいと思っています。

11月、晩秋の東京に皆さまをお迎えできることを、心より楽しみにしております。